

歴史的景観形成地域における空き家活用を核としたエリアまちづくり事業の創出事業

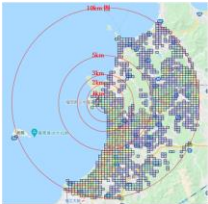
(株式会社グラノ24K)

課題	福津市は、観光資源は多く観光入込客数が570万人と県内でも比較的多いものの、宿泊者数は1.4万人と低く、観光消費額も2千円台/人と低調であることから、観光資源の更なる活用による滞在時間の伸長・観光消費の増加が大きな課題となっている。	
目的	本事業は、本エリアの歴史的建造物の一つであり空き家となっている豊村酒造の別邸を宿泊・飲食・ワーケーション拠点等の観光拠点施設として活用し、エリア内の公共施設や地元団体との連携、更なる拠点となる空き家の発掘により、対象施設を核とした本エリアの包括的な観光まちづくり事業を展開するものである。本事業により、エリア内での観光客が回遊できる魅力や付加価値を高め、結果として滞在時間や宿泊率、一人当たり観光消費額を増加させ、福津市の観光課題の解決と地域経済の活性化を図ることを目的とするものである。	
取組内容	①本エリアにおけるマーケティング調査 ②先進事例調査 ③対象とする空き家等の地域資源の発掘調査 ④福津市及び地元団体とのワークショップの開催	⑤活用する空き家の選定と空き家の活用方策の検討 ⑥事業計画の策定 ⑦事業主体となる法人組織の設立検討
成果	・マーケット調査による対象地の市場環境の把握 ・ワークショップの開催等による地域共創型の事業モデルの構築 ・活用可能な空き家、連携可能な周辺施設の発掘	

成果①

マーケット優調査により対象地及び周辺地域の市場環境等について調査を実施した。合わせて、先進事例についてデスクトップリサーチと合わせて、岡山県矢掛町の取組を現地視察し、行政と事業者の双方へヒアリング調査を実施した。

商圏人口分析



事例視察調査



成果②

地元団体との意見交換及び住民ワークショップを実施し、地域の歴史や文化の尊重や住環境と観光事業との共存などのご意見・ご意向をいただき、これらを基に本事業の方向性・実施方針等を検討した。



成果③

調査の結果、本事業で活用する空き家として、豊村酒造別邸、本事業で連携を想定する公共施設として、津屋崎ヨットハーバー、旧魚正、潮湯の里夕陽館を選定し、各施設の利活用による事業計画を策定した。

